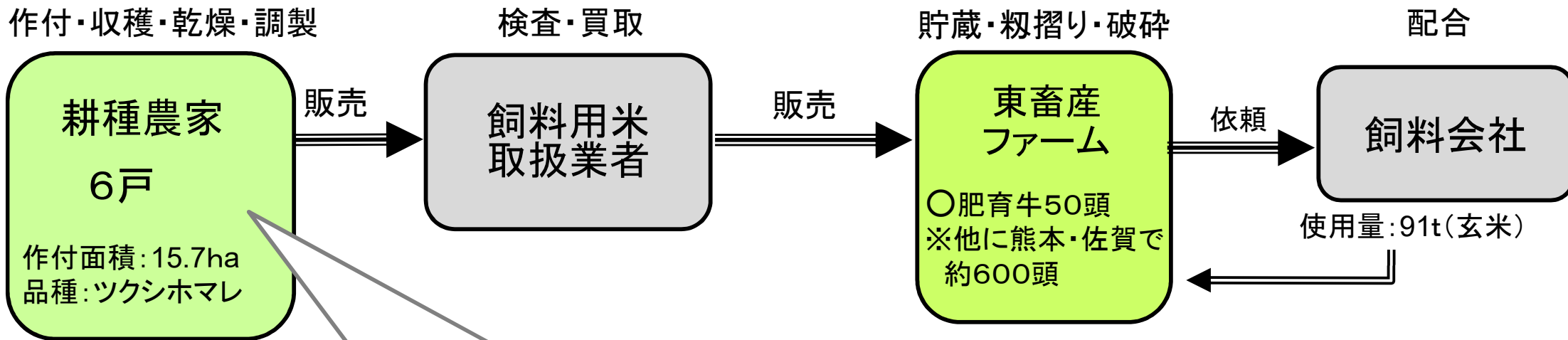


【肉牛】（福岡県 東畜産ファーム）

- 東畜産ファームでは、試行錯誤の結果、平成22年度から飼料用米の給与を開始。平成26年に大型飼料用米破砕機を導入し、肥育牛に給与。
- 作付・収穫・乾燥・調製作業を、可能な段階まで耕種農家に実施してもらうことで、畜産農家の負担が軽減。
- 平成30年からは、自身の破砕機で破砕した飼料用米の配合を、飼料会社に依頼。自身の混合作業に比べ、労働力を含めてコストを削減。
- 配合飼料のうち飼料用米の割合は5～10%。とうもろこしを飼料用米に置きかえることで、飼料費を削減。



作付面積: 15.7ha
品種: ツクシホマレ

東畜産ファーム
○肥育牛50頭
※他に熊本・佐賀で約600頭

使用量: 91t(玄米)

収穫・乾燥・調製

(農)大川飼料作物振興会

- ※耕種農家が作業できない部分のみ作業実施
- ・構成員・・・大家畜飼養農家3戸
(うち1戸が東畜産ファーム)
- ・作業・・・WCS用イネ・飼料用米の収穫・乾燥・調製等、玉ねぎの作付



飼料用米保管の様子

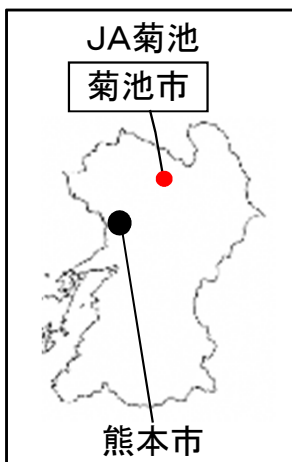
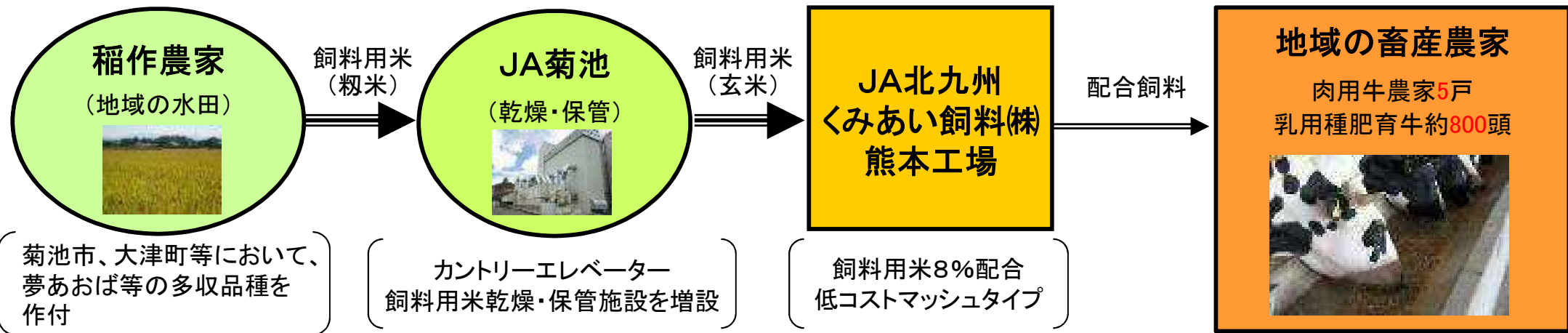


飼料用米破砕機



【肉牛】（熊本県 JA菊池）

- 菊池地域では、平成21年より、肉用牛農家が飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を拡大。令和2年産については、肉用牛農家5戸が、生産された647トンの(124ha)の飼料用米の一部を、肥育牛約800頭(乳用種肥育)に給与。
- JA菊池では、飼料用米の乾燥・保管施設を確保するために、地域のントリーエレベーターに飼料用米の専用施設を増設。畜産農家の需要に応じて、JA北九州くみあい飼料(株)へ飼料用米(玄米)を搬送。JA北九州くみあい飼料(株)で飼料用米を8%配合した飼料を製造し、畜産農家に供給。畜産農家は、肥育全期間において、飼料用米を8%配合した飼料を肥育牛に給与。お米を食べて育った地域環境にやさしい牛として、これからも飼料用米の取組を拡大する意向。
- 飼料用米を給与した牛肉は、「地域環境にやさしいお肉、地産地消、エコ」を販売コンセプトに、「えこめ牛」として、JA菊池の直売所「きくちのまんま」やAコープ、まんまキッチンなど県内外の量販店で販売。



○ 飼料用米作付等状況

年産	H21	R2
作付面積(ha)	35	124
収穫量(t)	198	647
給与頭数(頭)	420	800

牛肉のブランド化

JA菊池の直売所「きくちのまんま」等で販売

試食会

【採卵鶏】（大分県（有）鈴木養鶏場）

- （有）鈴木養鶏場では、平成19年より、採卵鶏に飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を拡大。平成23年には、飼料用米を成鶏全羽に通年給与し、30%の配合割合で12万羽、40%の配合割合で3万羽に給与。平成30年に1,400t規模の飼料用米保管施設を増設し、約3,000tの飼料用米が受入可能となっている。
- 生産した卵の約80%を、大手地元百貨店等で直販。また、アンテナショップと加工場を兼ねて平成13年にオープンした「鈴卵（すずらん）食品館」で、新鮮な卵他、「卵屋さんが作ったスイーツ」としてロールケーキやシュークリーム等の加工品を販売。「鈴卵食品館」は盛況で、1日に約300人が来店。
- 鶏糞を発酵させた良質な堆肥を、「鈴木の有機肥料（粃殻との混合）」として販売（約1,500ト/年）。飼料用米生産水田への有機肥料の還元を通じた資源循環型農業を実践し、地域の稲作農家との共存共栄を志向。



○ 飼料用米利用量の推移

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
利用量 (t)	1,080	1,300	1,700	1,685	1,376	1,500	1,400



【肉牛】（大分県 豊後・米仕上牛(ぶんご・こめしあげぎゅう)）

- 豊後高田市肥育部会では、平成21年より飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を随時拡大。
- 飼料用米の保管と加工に係る委託先として、地域のライスセンターと飼料加工業者を飼料用米供給体制に組み込むことにより、飼料用米の周年給与が可能となった。肉用牛農家では、出荷までの間に飼料用米を交雑種肥育牛1頭あたり200kg以上給与している。
- 畜産農家と食肉卸売業者が連携し、「消費者が安心を感じるテーブルミート」を販売コンセプトに、飼料用米を給与した牛肉の一部を県内のスーパーを主体に、県内外の外食店舗や県外スーパーで販売し、「豊後・米仕上牛」としてブランド化。

